

麻○太○郎邸宅



しくみ

- 宮中三殿 5.815km - 麻○太○邸宅 - 神慈秀明会東京支部 5.815km
 - // - 吉守稲荷神社 5.815km
 - // - 天祖神社 5.815km
 - 麻○セメント 6.19km - 麻○太○邸宅 - 日比谷神社 6.19km
 - // - 三菱重工業（株） 6.19km
 - // - 大村益次郎像 6.19km
 - // - 新井天神北野神社 6.19km
 - 東京カテドラル聖マリア大聖堂 6.59km - 麻○太○邸宅 - 東京大神宮 6.59km
 - // - 川崎重工業株式会社 東京本社 6.59km
 - // - 電通本社 6.59km
 - (株) 麻○大浦荘 457.29km - 大本教梅松苑本宮山月山不二 - 阿弥神社 457.29km
 - 大本教梅松苑本宮山月山不二 457.28km - (株) 麻○大浦荘 - 統国寺 457.28km
- ※すべて建物と建物がピンポイントの同距離です。

しくみ詳細

- 宮中三殿 5.815km - 麻○太○邸宅 - 神慈秀明会東京支部 5.815km



(参考)

■ 宮中三殿 5.815km - 麻○太○邸宅 - 吉守稲荷神社 5.815km

■ // - 天祖神社 5.815km

中道角

麻○太○氏邸宅

学習院大学政治経済学部にて政治学士（学習院大学）を取得。その後、麻○産業に入社し、麻○セメントの社長や日本青年会議所の会頭などを経て、1979年（昭和54年）衆議院選挙に初当選。以後1983年（昭和58年）の落選を除き、当選回数12回を数える。相続した自宅は25億円など世襲議員として資金力を有する。経済企画庁長官（第53代）、経済財政政策担当大臣（第2代）、自由民主党政務調査会長、総務大臣（第3・4・5代）、外務大臣（第137・138代）、自由民主党幹事長を経て2008年自由民主党総裁選挙により、第23代自由民主党総裁に選出され、第92代内閣総理大臣に就任した。

第2次安倍内閣で副総理兼財務大臣兼金融担当大臣として入閣した。首相経験者の入閣は幣原喜重郎、宮澤喜一、橋本龍太郎に続き戦後4人目。

弟の麻○泰は、人材派遣会社アソウ・ヒューマニーセンターを傘下に持つ麻○グループ代表である。また、実妹は皇族の寛仁親王妃信子殿下にあたる。信仰宗教はキリスト教（カトリック）であり、洗礼名は「フランシスコ」。公明党と太いパイプを持つ蜜月関係で知られる。麻○の2008年総裁選出馬表明直後には、公明党支持母体の創価学会婦人部・公明代表代行の浜四津敏子が異例のスピードで支持を表明し、麻○が総裁選で優位となる流れを作った。麻○の信仰宗教はキリスト教（カトリック派）であるが、神道政治連盟（神社関係者などの神道の政治団体）から支援を受けている。2009年（平成21年）12月9日には、神道政治連盟国会議員懇談会の名誉顧問に就任している。

渋谷区神山町に、敷地面積2400平方メートルの邸宅を所有している。マスコミから「麻○御殿」と呼称されることがある。先祖に吉田茂、竹内綱、大久保利通、三島通庸ほか。親戚に橋本龍太郎、安倍晋三、宮澤喜一（宮澤家はブリヂストンの石橋家と親戚であり、この石橋家を通して鳩山家ともつながる）

大化の改新（六四五）で活躍した藤原鎌足の血筋を引き、藤原一族の流れをくんでいるといわれている。麻○家は、福岡の大庄屋で、太賀吉の祖父・太吉の代に先祖伝来の土地から石炭が採掘され、九州三大石炭財閥（他は貝島家、安川家）の一つにのしあがった。太吉は石炭のみならず、鉄道、電気、金融まで手を広げ、それらは後の国鉄、九州電力、福岡銀行の基となっている。

渋谷区神山町 20-38

左極角

皇居宮中三殿

宮中三殿は、皇居内にある三つの連結された建造物の総称である。それぞれ、神道の神を祀っており、宮中祭祀（皇室祭祀）の中心となる。宮中三殿の構内には、附属するいくつかの建造物が配置されている。四方拝、新嘗祭が行われる**神嘉殿**（しんかでん）、鎮魂祭や天皇皇后の装束への着替えが行われる綾綺殿（りょうきでん）、神楽が行われる神楽舎（かぐらしゃ）、楽師が雅楽を演奏する奏楽舎（そうがくしゃ）、列席者が待機する左幄舎（ひだりあくしゃ）と右幄舎（みぎあくしゃ）、賢所に正対する賢所正門、新嘉殿に正対する新嘉門などである。宮中三殿の祭祀は、明治維新から宮中祭祀の変遷と漸次的集約を経て、教部省が成立した直後の明治5年4月2日（1872年5月8日）に整ったと解されている。



賢所には皇祖神天照大神を祀る。その御霊代である神鏡（八咫鏡の複製）が奉斎されている。また「かしこどころ」と読んで神鏡そのものを指すこともある。古代より宮中で祭祀された。掌典及び内掌典が御用を奉り、「忌火」（「神聖な火」の意味）を護り続けるとされる。平安時代は温明殿（うんめいでん）、鎌倉時代以後は春興殿にあった。古代から続くという宮中祭祀が行われ、現在の皇后、皇太子妃など皇族の妃らを宮中に迎える結婚の儀もここで行われた。その際、后妃が賢所を退出した際に婚姻成立とみなされる。神聖な場所のため穢れを嫌い、「次清」の別などの厳格な規律があるという。

なお、宮中三殿のうち賢所は古代から宮中で奉斎されてきたが、皇霊殿と神殿は、明治維新以降の宮中祭祀制度の再編成によって新たに宮中に遷座・奉斎されたもの。

神殿

天神地祇八百万神が奉斎されている御殿で、明治5年3月に神祇省の廃止と共に宮中に遷座したのがその始まりで、三殿の中では最も後に成立した。前項で記したように、明治2年6月、明治天皇は国是の確立を、天照大御神はじめ天神地祇八百万神と、神武天皇から孝明天皇に至るまでの歴代天皇の皇霊に御奉告のため、神祇官に霊代を設け招き祭らしめられ、御拝された。そして同年、神祇官に神殿を設ける事が決まり、同年12月に仮神殿が竣工し、その中央の座に八神を、東の座に天神地祇を、西の座に歴代天皇の皇霊がそれぞれ奉斎され、鎮座祭が斎行された。

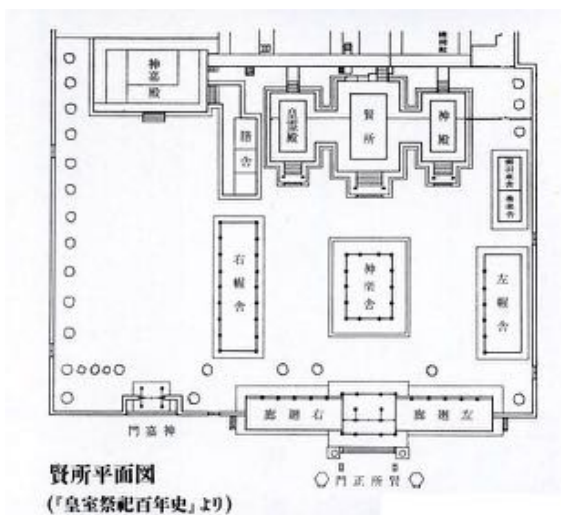
明治4年8月、神祇官が廃され神祇省が置かれ、それに伴い神祇省に継承された神殿（西の座）に奉斎されていた歴代天皇の皇霊は宮中賢所に奉遷されたが、八神と天神地祇は引き続き神祇省の神殿にお祀りされた。しかし、翌5年に神祇省が廃止され新たに教部省が置かれる事になり、そのため同年3月、神祇省神殿に奉斎されていた八神と天神地祇を宮中に遷し仮に賢所拝殿に奉安せしめ給う旨仰せ出され、それを受けて同年4月、神祇省の神殿に奉斎されていた八神と天神地祇、及び京都の神祇伯白川家、神楽岡の吉田家斎場、有栖川宮家の旧邸と新邸にそれぞれ鎮座されていた八神を、御羽車に移し、賢所拝殿に奉遷した。翌5年、八神と天神地祇の両座を合祀して一座とし、「神殿」と改称され、これによって現在の宮中三殿の原型が成立しました。東京都千代田区千代田1-1

右極角

神慈秀明会東京支部

世界救世教から、昭和45年に独立して生まれた。祖は、世界救世教の教祖である岡田茂吉（大本教の幹部）。立教者（開祖）は、世界救世教秀明教会の会長であった小山美秀子。世界救世教の分派教団の中では最大規模の団体であり、公称信者数は35万人とされている。会主、会長の強力なカリスマ性と布教指導力の元、教団に入信することで起こるとされる奇跡、奇瑞を宣伝の要として、「あなたの健康と幸せをお祈りさせてください」という声かけや、路上や駅前での手かざし（浄霊）などで当時有名になった活発な布教活動を行うことで信者数を大幅に増やし、本部境内（神苑）や美術館等の大規模な建設も行い、その建設の資金源となる献金の積極的な推進などを信者らに行った。内外から多くの批判を浴びた。本部は、滋賀県甲賀市信楽町。

東京都世田谷区深沢8丁目12-4



吉守稲荷神社

祭神 宇迦之御魂神 商売繁盛、五穀豊穰 詳細不明

東京都杉並区浜田山2丁目1-1



天祖神社

土地の古老の間では永正4年(1507)と言われている。永正4年といえば、北条早雲が小田原城主として後北条の基礎を築いた頃で、世田谷はその傘下にある源氏の名門吉良(きら)家の領地でした。

鎌倉幕府を開いた源頼朝は、氏神である八幡神と同様伊勢神宮を篤く崇敬しており、関東の地にも御厨(みくりや)といって伊勢神宮へ納める米などの作物をつくる土地を寄進しました。このご縁でご祭神天照大御神を祀る天祖神社・神明社が祀られました。但し、当社がそのご縁によるものかは不明。

因に、経堂在家村といわれていた江戸末期には、村内に伊勢宮、天神社、四稲荷社の六社があった。

東京都世田谷区経堂4丁目3-2



備考

ちょうど丸1年かけ、時代ごとの主だったしくみをまとめられたので、しばらく休もうと思っていたが、[麻〇太〇が日本の巨悪の中心と紹介されたブログ](#)を見つけたので、興味が湧き調べてみることにした。すると、国民の気が集まる天皇家と大元教幹部岡田茂吉を祖に掲げるカルト教団神慈秀明会から守られる場所に麻〇太〇氏の邸宅は建つことがわかった。しかも建物はカバラに基づいたシンメトリー。麻〇邸は天皇や様々な神社から気を集め、麻〇邸そのものも力を持つ聖地となっている。きっと立派な祭壇があって毎日祈りを捧げているのではないか。しくみはこれだけでない。

■ 麻〇太〇邸宅5.82km - 宮中三殿 - 三田春日神社 5.82km
同距離 月窓院、戒法寺、常光寺



三田春日神社

祭神/天兒屋根命 境内社/福德稻荷神社、新明社、赤羽稲荷神社

武蔵国国司藤原正房卿が天徳2年（958年）に任国の際、藤原氏ならびに皇室外戚の氏神なる大和国奈良春日大社の御神霊を目黒区三田（目黒春日神社）に勧請、天文年間（1533-1555）当地へ遷座したといひます。明治5年村社に列格、平成6年赤羽稲荷神社を境内に遷座したといひます。

東京都目黒区三田2丁目8



宮中三殿 ※上記参照

麻○太○邸宅 ※上記参照

備考

今度は逆に皇居宮中三殿を中心にコンパスを広げてみると、麻○太○氏の先祖とされる藤原家の護り神の武神春日神社と見事につながった。境内には、商売にご利益あるとされる稲荷神社が二つもある。

- 麻○セメント 6.19km - 麻○太○邸宅-日比谷神社 6.19km
- // - 三菱重工業（株） 6.19km
- // - 大村益次郎像 6.19km
- // - 新井天神北野神社 6.19km



麻〇セメント

福岡県福岡市に本社を置くセメント製造会社。代表取締役社長 麻〇泰（麻〇太〇の弟）

株式会社麻〇と、フランスのセメント大手であるラファージュ社との合弁会社である。1934年（昭和9年）3月 - 産業セメント鉄道田川工場操業開始。

東京都千代田区内幸町1丁目-1-7



日比谷神社

豊受大神（稻荷神）・祓戸四柱大神（瀬織津比売大神・速開都比売大神・気吹戸主大神・速佐須良比売大神）を祀る。旧称 日比谷稻荷明神。創建年代は不詳である。元は現在の日比谷公園内の大塚山に鎮座していた。慶長年間、江戸城の拡張に当たり、氏子とともに芝口（現在の東新橋）に移され、明治時代、鉄道（東海道線）の敷設に当たり新橋4丁目に遷座した。

東京都港区東新橋2丁目1-1



三菱重工業（株）

日本最大の機械メーカーであり、三菱東京UFJ銀行・三菱商事と並ぶ三菱グループ御三家の一角。その製品数は700を超え、「機械のデパート」とも呼ばれる。主力製品は、船舶・エネルギー関連機器・産業機械・航空機・ロケットなど。また、鉄道車両（リニア・電気機関車・懸垂型モノレール・新交通システム・LRVなど）の製造、さらにエアコンや事業所向け大型冷凍機、産業向け工作機械、ターボチャージャー、ETCシステムの製造でも知られ、過去には「シルバーピジョン」というスクーターも製造していた。兵器製造の分野では旧防衛庁（2016年現在は防衛省）への納入実績第一位の企業であり、世界では21位・日本ではトップの軍需企業とされ、戦闘機・ヘリコプター・イージス艦を含む護衛艦・潜水艦・戦車・ミサイルなどを製造している。事実上、日本の国防を担っている存在である。

東京都港区港南2丁目16-5



大村益次郎像

1893年（明治26年）6月除幕式。自身が鎮圧した彰義隊との戦いの上野の西郷隆盛と目があうように作られたとされる。戊辰戦争で散った多くの命を見てきたので目的は違えども日本を思って散っていった霊をまつりたいと奔走した。日本陸軍の創設者。明治維新の功労者。1869年（明治2年）7月8日、兵部大輔に異動。9月4日、刺客に遭難。11月5日、逝去。

東京都千代田区九段北 2丁目-1



新井天神北野神社

文武両道の神とされる菅原道真公、また食物を司る保食神の二柱をお祀りしております。当神社の創
しくみ～定規とコンパス・ピンポイントカバラ～「明治～現代編」2017

建年代は明らかではありませんが古くは天満宮と称し、天正年間（1573～1592）、新井薬師の開祖である沙門行春が建立したとも、それ以前よりこの地の鎮守社であったとも言われています。

東京都中野区新井4丁目14-3

備考

麻〇セメントの東京事務所を置くにあたり、日比谷神社とつなぎ、麻生邸からの気を引くしくみにしたのだと思う。ほかに新井天神北野神社や、朝鮮総連の項で紹介した大村益次郎像とも同距離。三菱重工業とも同距離で、さすがにこれは偶然だろうと思ったが、次頁のしくみを見つけて可能性はあると思い記載した。

- 東京カテドラル聖マリア大聖堂 6.59km -麻〇太〇邸宅- 東京大神宮 6.59km
- // - 川崎重工業株式会社 東京本社 6.59km
- // - 電通本社 6.59km



東京カテドラル聖マリア大聖堂

1877年（明治10年）に日本北緯使徒座代理区の初代司教として来日したピエール・マリー・オズーフは、教会発展のため東京の中心地に土地を求めた。しかし当時、外国人の土地取得は地所質入書入規則により禁止されていた。そのため1886年（明治19年）5月22日、土地所有者の一柳末徳から、オズーフに代わって浅草教会信者名義で小石川関口台町（現在の文京区関口）の土地を購入した。

その後、浅草教会構内にあった「玫瑰（まいかい）学校」の仏文科教頭であった司祭のジャン・ピエール・レイは、学校に収容されていた孤児たちが青年へと成長し、職業訓練等が必要になり、もっと大きな施設が必要となったため、1888年（明治21年）、既に購入済みだった関口台町の土地に高木甚三郎の協力を得て「聖母伝語学校」を設立した。この学校の敷地内に1899年（明治32年）9月10日、生徒たちの協力を得て附属聖堂が建堂される。翌1900年（明治33年）1月7日には小教区聖堂として認められ、同年2月26日には東京府へ「聖母教会」設立願を提出、同年10月8日に認可され独立した。1912年（大正元年）に東京大司教に就任したレイは、大司教座のある築地教会には住まわず、関口教会内で執務し、1920年（大正9年）には大司教座を築地教会から関口教会へと移転した。



1967年（昭和42年）10月23日には吉田茂元内閣総理大臣の葬儀が行われた。

東京都文京区関口3丁目3-16-15



東京大神宮

東京における伊勢神宮の遥拝殿として明治13年に創建された当社は、最初日比谷の地に鎮座していたことから、世に「日比谷大神宮」と称されていた。関東大震災後の昭和3年に現在地に移ってからは「飯田橋大神宮」と呼ばれ、戦後は社名を「東京大神宮」と改め今日に至る。

東京都千代田区富士見2丁目4-1



川崎重工業株式会社 東京本社

会社の歴史は19世紀の明治時代より始まっており、東京築地の川崎築地造船所に端を発している。大正時代の第一次世界大戦による造船活況、そして世界大恐慌、昭和時代の第二次世界大戦、戦後の高度成長期と日本の近代史・産業史とともに存続してきた日本を代表する総合重機械産業である。三菱重工業・IHI(石川島播磨重工業)とともに三大重工業の一角を担う名門企業でもある。

自衛隊の潜水艦や航空機、ミサイルの製造もおこなう国内有数の防衛産業でもあり、防衛装備受注金額では2015年度の防衛中央調達額で三菱重工業を抜いて日本第1位、世界第28位に位置する。武器輸出禁止三原則に代わって閣議決定された防衛装備移転三原則に従い、オーストラリアへの潜水艦輸出やイギリスやニュージーランドへの対潜哨戒機輸出も検討するなど日本国における防衛産業の代表として台頭している。

神戸を拠点とする有数の関西系企業でもある。かつては川崎財閥（松方コンツェルン）の主要企業であった経緯から、川崎製鉄（現 JFE スチール）・川崎汽船とも関係がある。本社は神戸市中央区の神戸クリスタルタワーであり、東京都港区海岸に東京本社も設置している。

東京都港区海岸1丁目14-5



電通本社

1901年（明治34年）、光永星郎によって設立された「日本広告」を前身とする。1907年（明治40年）、光永は通信社を設立したことで日本広告は吸収され「日本電報通信社」（電通）となる。

1932年には満洲国において新聞聯合社と電通の通信網を統合した国策会社「満洲国通信社」（国通）が創立。同社は新京に本社を置き里見甫を主筆として活動したが[4]、1936年（昭和11年）には通信部門は同盟通信社に譲渡され、電通は広告代理店専業となる。

1947年（昭和22年）に連合軍最高司令官総司令部により公職追放された上田碩三の後任として吉田秀雄が第4代社長に就任し、広告取引システムの近代化に努めた。軍隊的な社則「鬼十則」を作るなど、電通発展の礎を築いた。

広告代理店として単体では世界で最大（グループとしては5位）の売り上げ規模であり、連結売上高

しくみ～定規とコンパス・ピンポイントカバラ～「明治～現代編」2017



は2兆円を超える(2008年3月期決算による)。その圧倒的なシェアゆえ、市場の寡占化が問題視され、2005年(平成17年)には公正取引委員会が調査を開始し、調査報告書において電通の広告業界における寡占化の進行の事実を指摘した上で「公平性、透明性の確保が必要」と結論づけた。
東京都港区東新橋一丁目8番1号

備考

しっかり麻〇太〇氏の祖父吉田茂の葬儀が行われた教会「カトリック教会」と東京大神宮がつながった。どちらも明治につくられている。そして、今度は川崎重工業とつながった。三菱重工業とともに日本の二大防衛産業企業。これは偶然ではないと思う。

- (株) 麻〇大浦荘 457.29km - 大本教梅松苑本宮山月山不二 - 阿弥神社 457.29km
- 大本教梅松苑本宮山月山不二 457.28km - (株) 麻〇大浦荘 - 統国寺 457.28km



(株) 麻〇大浦荘

麻〇太吉が明治時代に飯塚市で始めた「麻〇炭鉱」を源流とし、現在ではセメント事業、専門学校運営、病院経営、医療廃棄物処理など幅広い分野の事業を手掛けている。飯塚病院は、もともと炭鉱労働者のために開設されたものであったが、現在は筑豊地区の中核医療機関の一つに位置づけられている。

麻〇塾は、麻〇太賀吉が1939年(昭和14年)に私財を投じて飯塚市柏森に創設した私塾。麻生メディカルサービス(アップルハート)や各公益法人は、飯塚病院の事業から派生したもので、コムスンが破綻した際、その福岡県における事業を引き継ぎ麻生介護サービス株式会社として事業を新たに展開している。2015年現在会長を務める麻〇泰は、政治家麻〇太〇の弟。

福岡県飯塚市立岩1060



大本教梅松苑 本宮山 月山不二 (綾部市)

大本の聖地「梅松苑(大本本部 綾部祭祀センター)」は大本発祥の地。田園都市綾部市の中心を流れる清流由良川(和知川)のほとり、緑深い本宮山一帯を境内地とし、長生殿をはじめ数々の神殿が建ち並んでいる。

大本の発祥は、明治 25 年旧正月、京都府綾部市本宮の地において、国常立尊の神霊が良の金神（うしとらのこんじん）の名により、出口なお開祖に神がかりし、三千世界の立替え立直し、みろく神世の実現を啓示したことによる。また大本は、綾部市梅松苑（大本本部 綾部祭祀センター）及び亀岡市天恩郷（大本本部 亀岡宣教センター）を神業の根本聖地とし、梅松苑（大本本部 綾部祭祀センター）を祭祀の中心地、天恩郷（大本本部 亀岡宣教センター）を宣教の中心地としている。

大本の至聖所「本宮山」。標高 91.7 メートル、広さ約 6 ヘクタール。神体山である。鶴山、桶伏山、円山、丸山とも呼ばれる。現在、山頂には、残った旧長生殿の礎石の上に、こんもりと砂盛りされた最高至聖所「月山不二（つきやまふじ）」がある。その正面には神声碑、教碑がたっている。本宮山は禁足の至聖所になっている。

京都府綾部市本宮町 1-1

阿弥神社

主祭神/健御雷之男命 配祀神/経津主命、天兒屋根命

創建は諸説ある。推古天皇 15 年（607 年）。式内論社。竹来（高来、たかく）は、常陸国風土記の普都神話に由来する地名で、普都大神の登天（高往く）の聖地である。社地は霞ヶ浦に向けた舌状台地にあり、奥部は中世の竹来館（花ノ井館）の遺構である。この山を普都神話になぞらえて「楯縫山」という。

近世まで信太郡の西半 45 ヶ村の総社として、信太郡二宮（二宮明神）を称した。明治初頭の県社列格の同年、阿彌神社と改称。社名碑に「懸社延喜式内二宮阿彌神社」、鹿島神宮大宮司奉納の拝殿扁額に「縣社阿彌神社」とある。信太郡一宮は、信太郡の東半の総社であった楯縫神社（美浦村）である。この二社は関係が深い。普都神話の聖地（甲楯を脱いだ地＝楯脱、登天した地＝高来）に由緒を求める。

延喜式神名帳に記載がある（常陸国信太郡小二座）。ただし阿彌神社は論社。信太郡東西の総社であり、信太郡一宮（楯縫神社）、信太郡二宮（阿彌神社）と称した。南北朝時代はともに「庄内第一の宗廟」とされた（円密院文書）。両社で普都神話を縁起とする古式祭を行っていた。近代社格制度では県社に列格した。

茨城県稲敷郡阿見町竹来 1 6 5 2



統国寺（雲水寺）

在日本朝鮮仏教徒協会傘下の寺院。雲水寺は正式には和気山・邦福寺。聖徳太子の庇護のもと百済の人達が建立した古寺で宇治の万福寺と同系列。雲水（諸国行脚托鉢の修行僧）達が多数出入りしていた為、俗に雲水寺と呼ばれた。1970 年から北朝鮮の在日仏教連盟が維持し『統国寺』と改められた。黄檗宗でもなければ日本仏教でもない、朝鮮半島土着の巫女儀礼のシャーマニズムと、修験道をミックスさせた生駒朝鮮寺群の 1 つである民間信仰の新興宗教。周辺のたくさんあるラブホテルも在日朝鮮人経営。大阪府大阪市天王寺区茶臼山町 1-3 1

<http://ragaraja2.cocolog-nifty.com/blog/2008/09/post-a621.html>

備考

東京の神慈秀明会とのつながりで大本教が関わっていることが分かったので、今度は大本教本体にコンパスを当ててみた。亀岡とは合わなかったが、麻〇太〇氏の実家と綾部の梅松苑はぴったりつながった。梅松苑は大本教の祭祀場だ。さらに梅松苑を中心にコンパスを回すと茨城の阿弥神社とつながった。どう麻〇家とつながりがあるがわからないが、由緒ある武神の式内社。麻〇家には代々おかかえカバラ使いがいる。(2017.3.27)